

# コードシェアセッションって知ってる？

平本 俊郎

講演会企画・運営委員会委員長 (東京大学)

春と秋に行われる学術講演会では、さまざまな試みが行われています。今号では、「コードシェアセッション」についてご紹介いたします。2014年秋季講演会(北海道大学)から始めた企画

で、すでに3年がたっておりますが、まだまだ会員の方に知られていないコードシェアセッションとは、複数分科にまたがる境界領域の講演を1つのセッションにまとめ合同で開催するものです。

### 【異なる大分類でコードシェアの例】

- ・「6.1 強誘電体薄膜」「13.3 絶縁膜技術」「13.5 デバイス/集積化技術」
- ・「6.6 プローブ顕微鏡」「12.2 評価・基礎物性」
- ・「9.4 熱電変換」「16.2 エナジーハーベスティング」
- ・「3.11 フォトニック構造・現象」「13.7 ナノ構造・量子現象」など

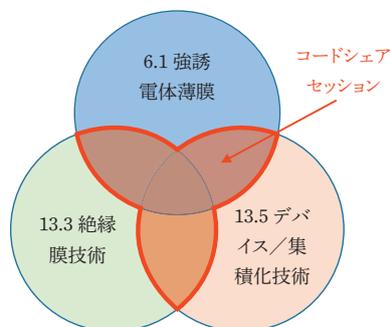
### 【同じ大分類内でコードシェアの例】

- ・「3.13 半導体光デバイス」「3.15 シリコンフォトニクス」
- ・10.1, 10.2, 10.3, 10.4 コードシェア「新規スピン操作方法および関連現象」など

今までは、境界領域にある講演を聴講するには、どちらか一方の中分類のセッションしか聴講できず、もう一方の講演は聴講を諦めるしかありませんでしたが、コードシェアセッションを実施することで、両方の講演を聴講することが可能になりました。

発表者は、特に今までと異なる申し込みは不要です。従来どおりの登壇申込を行っていただくだけです。

従来ですと、新しくセッションを立ち上げるには複数の大分類に打診して「合同セッション」を立ち上げる必要があります。それは非常に敷居の高いものでした。コードシェアセッションの誕生で敷居が一気に低くなり、プログラム編集



複数の中分類にまたがる境界領域の講演を1つにまとめてセッションを組む。

委員の皆様が積極的にコードシェアセッションを実施しております。また、プログラム編集を行う当日に、その場で委員同士が話し合っってコードシェアセッションを立ち上げることも、このコードシェアセッションの特徴です。

### 【コードシェアセッションが実施されるまでの流れ】

1. 発表者は登壇申込の際に従来どおり、発表を希望する中分類を選択
- ↓
2. プログラム編集の際に委員が予稿の内容から境界領域の講演をまとめる
- ↓
3. コードシェアセッションの完成



会場イメージ。

### プログラム編集委員の声

齋藤 真澄 (株)東芝) : 13.5 デバイス/集積化技術

昨今の学術講演会で強誘電 HfO<sub>2</sub> 関連講演が複数の中分類で増加している状況を踏まえ、合同セッションに比べて敷居が低い(プログラム編集当日に立ち上げることも可能な)コードシェアセッションを企画しました。個別セッションと比べて大きな会場をアサインすることもでき、これまでは必ずしも交流が盛んではなかった、強誘電膜プロセス、膜物性、デバイス応用の研究者が一堂に会して白熱した議論が行われました。

今後、より多くの方にコードシェアセッションの存在を知っていただき、新しい技術分野を創出するうえで重要な「境界領域」の議論の場として、幅広く活用されることを期待します。

### セッションに参加した方の声

舟窪 浩 (東京工業大学)

強誘電体 HfO<sub>2</sub> についてのコードシェアセッションでは、強誘電性の起源といった基礎的な研究や、応用上の問題点の指摘、さらには新規デバイスに関する議論が行われました。従来は異なったセッションで行われてきた発表が、今回のコードシェアセッションでは基礎から応用までを一堂に聞くことができました。薄膜プロセスと新材料開発の研究に軸足を置く者にとっては、デバイスまでの各分野の研究者がどのようなことに問題意識をもっているかがわかり、非常に有意義なセッションでした。